



大分県立竹田高等学校
関東同窓会報
第29号

発行者・会長 佐藤映之
編集者・委員長 佐藤毅士
発行所・関東同窓会事務局
〒190-0002
東京都立川市幸町4-47-29
電話 042-535-3322
FAX 042-535-3322

印刷・佐伯印刷(株)

同窓会長再任の挨拶

関東同窓会会長

二期目続投にあたって

佐藤 映之



関東同窓会々員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は当、同窓会の運営に格別のご支援、ご協力を賜わり厚く御礼を申し上げます。

お蔭様で当会も設立十九年を迎えることができ、内容も皆様のご支援のもと益々充実して参りました。当会の運営は隔月実施の役員会(委員長以上)、春秋二回の幹事会(各学年幹事以上)、それに企画、総務、組織、広報、名簿の個別委員会、そして当番幹事会等々、多くの方々のおかげで、ボランティア活動により成り立っております。会員組織も二一〇〇

名を擁し、年一回の総会も毎会二〇〇名を越え活気に満ちております。今年役員改選期となります。早いもので一昨年会長を仰せつかり任期が終了致します。去る三月十四日の幹事会に辞任を申し出ましたが、当会の会長は二期(四年)が慣例だから続投せよと一蹴され、止むなく非力をかえりみずお引受け致した次第でございます。改めて気持ちを引き締め更なる会の発展に微力を尽くす所存でございますので皆様の変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

会長兼任を解き単独委員長、副幹事長交代、各委員会副委員長強化、各学年幹事(正副)の再確認、又名簿委員会を名簿の骨格が完成したのを期に発展的の解消、事務局が合併する。等々ご会務を推進致します。新しいスタッフも張り切っております。積極的にご支援の程を重ねてお願い申し上げます。関東同窓会としては会の充足を図りつ、母校に對しいささかなりともお役に立つことがないか模索して参りたいと思えます。母校、竹田高校は大分県下高等学校の再編の動きの中にあつて単独進学校として存続が決定したようであります。これもひとえに現竹田高校が優秀な伝統校として頑張っている証でありましょう。幸い母校出身の渡部郁之助校長が血の通った教育を施し優秀な生徒の育成にご尽力され、又背後より後藤宗昭同窓会長が叱咤激励されているようで誠に敬服の極であります。最後になりましたが会員の皆様のご多幸をお祈りして再任のご挨拶を申し上げます。

総会と懇親会のご案内
乞ご期待!
第十九回 関東同窓会
日時 平成十七年六月十八日(土)
受付 午前十一時開始
場所 新宿ホテルセンチュリーハイアット
●総会 ●懇親会 ●企画 (桃山の間)
当番幹事 第十六期(昭39年卒) 第二十六期(昭49年卒)
一、総会
・会務・会計報告
・監査報告
・新年度の方針他
二、懇親会
当番幹事さん企画による余興他。
尚、会場は学年別に椅子席を準備。先輩後輩の交流にご期待下さい。
企画委員長 桑島輝茂

春の幹事会協議事項報告

幹事長 用正 靖彦



ることから発展的に解消し、その窓口を事務局に移し担当者を置くことが提案された。更に第(十一)条(会議)の幹事会の文面を簡素化する提案がされ、審議された結果、幹事会としては異議は無く、総会で承認を得ることになった。

(二)役員改選について

春の定例幹事会が平成十七年三月十四日(月)会長以下役員および学年幹事二十六名の出席を得て、神田の学生会館で開催された。

会長より、全役員が任期満了により辞任する旨の発言があり、直ちに新会長の選出が行われ、佐藤映之氏が満場一致で再任された。会長就任にあたり、特に各委員会の活動強化と、とぎれない学年幹事の選任により同窓会活動にご協力頂きたいと話された。

冒頭、会長より本年は役員改選の年でもあり、去る二月十四日(月)に行われた役員会で提案された会則の一部変更と役員選出、又六月十八日(土)に開催される総会・懇親会および各委員

引き続き、各役員候補が会長より推薦され審議の結果、別紙の通りに決定承認された。

会報告事項について、本席で充分に審議頂きたいと挨拶された。引き続き個別議事に移った。

尚、今回退任される栗生副会長には顧問に就任して頂きます。又酒井副幹事長、井企画副委員長、市村名簿副委員長には種々ご尽力を頂きました。厚くお礼を申し上げる機会には又ご協力頂きますようお願いいたします。

(一)会則の一部改訂について

について

春の定例役員会において、「現在の五つの委員会(総会・企画・組織・広報・名簿)」の中で名簿委員会は、歴代の委員長以下委員のご尽力により、その基盤固めが一応終り、今後は会員の異動等に伴う修正が主体とな

来る六月十八日(土)十二時より「ホテルセンチュリーハイアット東京」で開催されること

竹田高校関東同窓会役員

平成17年3月幹事会

役職	氏名	卒業年度
会長	佐藤 映之	昭和28年
副会長	広報担当	神田 清 26年
	総務担当	上村マサ子 27年
	組織担当	西 誠 30年
	企画担当	津下 渥子 34年
幹事長	用正 靖彦	30年
副幹事長	加藤 興史	33年
総務委員長	緒方 義信	38年
総務副委員長	佐田 俊一	41年
企画委員長	桑島 輝茂	42年
企画副委員長	保坂 斎子	46年
企画副委員長	志賀 卓史	51年
組織委員長	後藤 猛士	41年
組織副委員長	甲斐 文夫	43年
広報委員長	佐藤 毅士	28年
広報副委員長	田部 修士	42年
監事	坂本 勇	28年
監事	工藤 敏暢	29年
事務局	(兼)用正 靖彦	30年
(名簿担当)	(和田 剛)	(34年)

(相談役、顧問を除く)

(四)維持会員の状況について

状況について

ます。

(五)各委員会よりの報告

(1)総務委員会

平成十六年度の収支状況については、期の途中ですが、平成十七年一月三十一日現在までの説明が行われ、これに年度末までの収支を加算し、幹事の鑑査を受けた後総務会で承認を得ることとします。

(2)名簿委員会

現在登録会員数は二二三〇名(内女性九二四名)ですが、その内二八一名が住所不明となっております。不明者の一覧表を本日出席の学年幹事に配布したので減少にご協力を願います。又会員に異動があった場合は、判明次第事務局までご連絡願います。

が決定している。第十九回関東同窓会総会・懇親会について、企画委員長および当番学年幹事(三十九年卒・四十九年卒)より準備状況の説明が行われた。

運営方針として、(1)会員相互の親睦と情報交換。(2)郷土の句いを出しながら童心に返り、会員同志の語らいの場と時間を多くする。(3)若い人が積極的に参加できる雰囲気を作る。この三点を目的として企画してきたと発言。

アトラクションは母校を五十五年卒業の落語家「柳亭市馬師匠」とその一門の話芸を楽しんで頂きます。又昨年好評でしたインフォメーションボードを今年も設置、多数の方々が出席されることを強く希望します。

(三)総会・懇親会について

について

各委員会報告

(1) 総務委員会から のお願い

総務委員長 緒方 義信
(S38年卒)

維持会員拡大に ご協力を

○維持会員とは

会員の中で申し出により維持会員となり、維持会費(年間一口五千元)を負担していただいている方々です。

○維持会員となるには

会報に同封されている郵便振替用紙で一口五千元何口でも可の維持会費を納入していただくだけで結構です。

総務委員会では、財務を担当しており、安定的な収入確保と健全な財務運営が重要な役目です。現在の運営状況を申し上げます。現在の維持会費と総会費が主な収入で総会費は懇親会費用に、維持会費は会報発行費用、名簿管理費用および一部総会費用に支出しております。詳細は定時総会で報告いたしますが、平成十六年度収支状況は確定ではありませんが若干の赤字が見込まれております。また、維持会員は約四百名ですが会費収入がやや減少傾向にあり、今後の運営に支障をきたす恐れが

出てまいりました。このことについては役員一同今後とも経費削減を図り、少ない予算の中でより内容の充実した会報の発行や懇親会の企画等に努力してまいりたいと考えております。

つきましては、会員の皆様方に関東同窓会の維持発展のため維持会員の拡大に、是非、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、維持会員の皆様には本年度維持会費納入の時期となりました。納付方よろしく願います。

総務委員会新メンバー

- (長) 緒方義信 (S三十八年卒)
- (副) 作用俊一 (S四十二年卒)
- 小池健治 (S四十七年卒)
- 板井 健 (S五十一年卒)

(2) 企画委員会

企画委員長 桑島 輝茂
(S42年卒)

関東同窓会も本年で十九回目を迎える事になりました。オギヤと産声を上げた乳飲み子が「青春の門」の小説のように高校を卒業して大学、社会へ旅立つ年齢になったのであります。同窓会員の皆様が満足頂きます様、今年S三十九年、S四十年卒業生の当番幹事さんのご協力を頂きまして、昨年好評でした(S二十八卒の熊谷克直さん考案) インホームションコーナーを引き続き会場内に設置致しま

すので、年齢や地域の垣根を取り払い、クラブ活動や、合併問題等等、話題豊富な会話をお楽しみ頂き、そしてメインゲストは久々ではあります。竹田高校出身の落語家、真打であります柳亭市馬師匠の登場です。話の内容は当日のお楽しみにして頂き、楽しくご歓談を頂きたいと思えます。厳しい経済状況が続く中、竹高健児の心意気で力強く生き抜き、会場での懐かしい人との出会いは掛け替えのない宝物と考えます。素晴らしい出会いの場であります同窓会に沢山のご出席頂き楽しんで頂きたいと考えております。

最後に学年幹事の皆様は大変ご苦労が多いと思いますが一層のご協力をお願い致します。又、平成十八年度は、S四十、五十年卒業の皆様のお力をお借りしたいと思っておりますので宜しくお願いを申し上げます。

(3) 組織委員会

組織委員長 後藤 猛士
(S41年卒)

古里のお祭りだ！関東同窓会竹田高校関東同窓会は発足して二十年の歳月を迎えようとしております。

この同窓会は年に一度開催される古里のお祭りです。

関東各地から老若男女が集い、あちこち親戚や知り合いばかりで、たちまちあの懐かしい青春

の一日に戻ってしまいます。

お祭りには、黄鵠(かしわ)と巻き寿司とお稲荷さん(具入りの三角ですよ!)がご馳走で馳走作りで朝から大変でした。

同窓会ではご馳走は、作らんでいいし、帰りにはお土産つきのお祭りです。女性会員の積極的なご参加をお願いします。一年に一度、同窓会に出席してワイワイ・ガヤガヤとあつという間のひと時をお過ごし頂きたいと思えます。一度参加されるとクセになる同窓会です。それと、お祭りは年寄りが若い人達を集めて伝承し、いつまでも盛大に行われるようにして行きたいと願っております。

是非、知り合い、姪御さん甥御さんに声かけて集まって下さい。

現在二千名強の会員が登録されておりますが昭和五十年卒業以降の会員が脆弱な状態で、来年度以降の幹事の確認に支障がでております。昭和五十年卒の方は来年度が幹事ですし、これから十年は五十年代卒の方々の活躍の場です。そして六十年代卒への良き伝承者となるためにも積極的な参加を熱望しますと共に名簿の提出をお願いします。いつまでも絶えることのない竹田高校であるために。

(4) 広報委員会

広報委員長 佐藤 毅士
(S28年卒)

広報委員会では若い同窓生の会員を増す目的で、関東同窓会のホームページを立上げるべく鋭意検討を続けて来ました。そして今年度初めには完成の予定でしたが、中心となって業務を遂行していた井勝馬氏が突然のやむをえない事情で広報の仕事が不可能になり従ってホームページの作業も一時中断することになりました。

しかしこの度開催された春の幹事会で、昭和三十五年卒の平手肇氏が新しくホームページの業務を引き継いでくれることに決まりました。平手氏はIBMのOBでこの道のベテランですので、広報委員会で協議し今年度当初に立上げました。

竹田高校 関東同窓会

URL <http://www.geocities.jp/kantohtaketa/>

メールでの問い合わせ先
gagyutaketa@yahoo.co.jp

連絡先：佐藤 毅士
TEL/FAX：0297-78-7774

H16年竹田会総会

昭和42年卒 田部 修士



竹田会会長挨拶

平成十六年十一月五日中野サンプラザにて関東竹田会の総会・懇談会が盛大に開催された。志生野アナウンサーの司会で総会がスタート、初めに七月に逝去された作家の飯尾憲士様はじめ物故者のかたがたへのご冥福をお祈りし黙祷を行った。

里見会長より、今年を振り返り台風による各地での風水災害と中越地震にふれられ、被災地の一日でも早い復興を願うとの挨拶があった。竹田市に対しては、十月二十日付け官報で告示があった新しい合併市に期待するとのエールを送られた。

来賓として、竹田市の後藤社会福祉協議会会長(竹田高校同窓会長)より、市制移行五十一年の記念行事初め、廣瀬中佐百年忌祭など地元への行事への会員の協力に対する御礼が述べられた。続いて甲斐商工会議所新会頭が挨拶の後、竹田市から上京された来賓の紹介をされた。続いて、森収入役より竹田市

の観光特派員を引き受けていただくことになったバリトン歌手の山本健二さん(日本童謡の会常務理事)に対して竹田市からの観光特派員任命書が授与され、同時に阿南市長からのメッセー

ジが披露された。山本健二さんは、昭和二十五年高校三年生の秋に西日本声楽コンクールに福岡から出場、岡城の仮設ステージにて独唱され、また岡城の縁で作家・司馬遼太郎氏とも交流をされていた経緯があり、竹田市にはひとかたならぬ思いがある旨報告があった。また、観光特派員引き受けについては、「最近ではコンサートの度に『名曲・荒城の月は明治維新後、廃藩置県の鎮魂の歌ではないだろうか』との口上とともに『荒城の月』でコンサートを締



竹田市からの来賓の方々を代表して甲斐商工会議所新会頭があいさつ



山本健二さん 竹田特派員を委嘱

めくくる機会が多く、頑張ってもらわせていただく」との説明があった。

アルゼ・阿南一成社長のご発声で一同乾杯、懇談会が始まり、竹田からの来賓、初参加の会員等々を取り囲んでの懇談、写真撮影の花が咲いた。

福引では、沢山の会員が竹田の自然薯、椎茸、竹田の名水で育った新米などをゲット、会は最高潮に達した。最後に司会者の指名でゲストの山本健二さんが再び壇上へ、荒城の月の一節を独唱願ひ、続いて全員で四節までを合唱し会を締めくくった。

神田関東同窓会副会長の締めのご挨拶で、今後の会の隆盛と来年の再開を約束して会を閉じた。

平成十六年度・関東同窓会竹田会連絡会

昭和42年卒 田部 修士

平成十六年十一月五日(午後三時~四時)竹田会の総会に先だって、竹田市から上京された来賓(森収入役、後藤福祉協議会会長、甲斐商工会議所会頭、内川前市議、後藤竹田高校同窓会副会長他)を交えて、竹田会・里見会長初め関東在住の竹高同窓会並びに竹田会の主だったメンバーが日本橋パーカール・2Fの大会議室で連絡会を行った。

初参加となる甲斐商工会議所新会頭に挨拶をお願い。来賓を代表して後藤竹田高校同窓会長、森収入役より竹田市の近況報告を受けた。

①初めに廣瀬中佐百年忌祭に関わる行事について(三月・百年忌祭)、(五月・合同慰霊祭)の協力御礼と、会計報告がされた。当初九百万円で始める計画であったが北九州市の末吉市長の激励もあり、二千万円に修正、各方面特に関東の方々へ協力を依頼し進めてきた。結果予定をオーバーする協賛を受けた。

今後は、後世に残していくため記念誌の編纂を予定している。最終の残金は廣瀬神社に納める考えです。

②収入役より市制移行五十一年の記念式典の報告並びに市町村合併に関する報告がされた。

*合併は、十月二十日付け官報で告示、スムーズな合併ができた。
*現竹田市役所が本庁となり各町の元の役場は総合支所となる。

*議員はおよそ半分になり、長も減るが役員がすぐに減ることとはない。

③大分県内で高校合併の検討がされており、豊肥地区は三重と竹田に集約され、竹田は普通科のみとなる計画。三重は農業、商業、工業を主に編成。

関東の出席メンバーから、竹田市は行事が多く分散している。地元を離れている人間からすると行事を季節ごとに集約して欲しい。また、宿泊施設が少ないのが問題との意見があった。

地元としては、グリーンツーリズムに加えてタウンツーリズムを進める動きがあり、その中で宿泊施設なども検討されるとの報告があった。

最後に、関東同窓会の臥牛編集メンバーの井さんより関東同窓会のホームページ開設に関する説明があり、地元との連携を太くしていきたい旨報告があった。

燃える!!

クラス会・同期会

二六会(東京) 平成十六年度例会

高山 茂美 (昭26年卒)

二〇〇四(平成十六)年十一月十九日(金)午前十一時三十分から午後二時まで、港区北青山二丁目の青山皇家飯店で東京二六会が開かれた。会場の中料理店は食通の間では著名な店らしい。平常は正午開店のところを幹事の今永博彬君の要請で三十分繰り上げて開店して貰った。幹事の案内文によると、「会場は明治神宮外苑銀杏並木の入口(青山通りからの)にあり、小春日和に黄葉を楽しみながら談話して云々」とある。当日は残念ながら雨だったが、折角の機会なので散会後銀杏並木の散策を楽しんだ向きが多かった。出席は男性二十名、女性十二名の計三十二名。

大半の会員が退職し、現役で活躍している方は少なくなったが、時間的に余裕ができて、体調不良の方も増え、本人が元気で身内に病人を抱えて動きがとれない等、古希を過ぎてクラス会に出席できれば幸せと思わなければならぬと実感。



東京二六会例会 [16・11・19]
於 青山皇家飯店

遠来の客として、別府から永見(浦部)弥生さん、愛知県岩倉市から河野(益城)テルさんが参加。東京二六会では珍しいことではなく、これ迄も地方からの参加者があり、東京からも地方の二六会に出席者がある。昨年六月の関西二六会(滋賀県草津市で開催)には東京、大分、福岡からも参加者があった。消息不明となっていた会員で佐竹義久君が出席し、五十七年ぶりで久闊を叙した。彼は旧制中学の二年間を竹中に在籍した後、学習院へ戻られた。秋田藩主の末裔で子爵の家柄と言えは同級でなくても覚えていてる方があるかも知れない。

懇談の後、阿南正会長から広瀬武夫百年忌祭及び関連行事への参加報告(二六会会員は十五名)があり、また、次期全国大会を開催することの可否、やるとすれば開催候補地はどこが良いか等の諮問があった。出席者の大半は開催に賛成で、関西地区を開催地に希望する意見が多かった。閉会后、三次会まで飲んで深夜に帰宅した方もいる。今回は今秋の予定。

関東二八会への つぎめき

矢口 知子 (昭28年卒)

早咲きの梅の香が、あちこちの庭から漂うところ私達同期の二八会が近づく。

立春を過ぎたとはいえ、三寒四温の季節だ。雨が降ると雪に変わる様な時もある。心配が当たった。二月十九日、寒い雨模様の日になって終わった。

しかし、昨年十布希の全国大会を、久住で盛大に迎えた意気ある二八会



関東二八会例会 [17・2・19]
於 市ヶ谷私学会館

会員である。市ヶ谷の私学会館に、三十一名全員「ヤア」と、いう挨拶のもと集まった。

笑顔が、あちこちに、竹田君があちこちに、自分の席に着く迄に皆、四、五分はかかった様だ。

幹事の方々のご苦労のもと、会の進行は始まった。ここで言い添えることがある。私達関東二八会には必ず、わざわざ遠方から参加して下さる方々がいる。今年も大分から一期一会の心を以って参加して下さった武藤道子さんが、皆に迎えられ、本当にうれしいうりである。

報告など「チョット」したセレモニーの後、いよいよ宴会に入る。先づは、おいしい料理に舌つづみを、美酒を口に流し入れ、お互いに話がはずむ。

幹事の企画で、テーブルごとに籤を引き、当たった人は、自分の「初恋談義」「今迄で一番ショックを受けたこと」を話す時間も持った。

その時ばかりは、皆集中し、まるで昔の少年少女の顔になり、少々のおどろき、髪も薄さも、白髪も、まるで消え失せ、三年間共に過ごした高校時代に戻り、楽しい笑いで盛り上った。

私の過ぎにし日記に記して置いた(サミュエル・ウルマン原作)「青春とは」から引用。

青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ……。

年を重ねただけで人は老けない。理想を失う時に初めて老がくる。歳月は皮膚のしわを増すが情熱を失う時に精神はしほむ。人は信念と共に若く、疑惑と共に老ける。人は自信と共に若く、恐怖と共に老ける。希望ある限り若く失望と共に老朽化する。

まさにその通りだ。我々七十にして未だ青春だ。家に戻れば、孫の可愛さに顔をほころばせる。おじいさん、おばあさんになる人も大半だと思ふ。

しかし二八会に集まれば、瞳がかがやかせ、心ときめきて、重ねた歳月など、何のその。青春は続く。

来年の幹事を互選し、例にもれず、最後は「校歌」を、スクラムを組んで力一杯、歌った。

関東二八会とは、私達、未だ未だ失われぬ青春の源であり、今だにときめく会なのだ。

竹田40会in東京 を終えて

40会in東京実行役員(昭40年卒)

五十八歳の東京大会はとにかく楽しいものにしたかった。そのためには「歓談」と「アトラクション」の充実だ。「歓談」は何もしなくてよい。「アトラクション」は何かをする人を見つけなければならぬ。

東京にはクラス役員と実行役員が三十五名いるが芸人は見あたらない。これは全国ネットワークにかけるといい、ゴルフデンウイークに備えた。

ひよんなことから、大分で三人が見つかった。一人は踊る人、二人は楽器をやる人。そうこうしているうちに、福岡に何のジャンルかわからないがアドリブでいろいろする人が見つかった。彼が仲間を連れて来るという。これで芸人は自前で揃った。

東京大会は品川プリンスホテル

で一次会、二次会をぶつ通して四時間やることになっていった。アトラクションの一次会はコンサート風に、二次会はドタバタにした。一次会にもう少しインパクトが欲しい。数年前、緒方中学校の同級会で聴いた日君のヨーデルがうつつけた。さっそく電話を入れた。あっさり断られた。日君のことをあきらめていた頃、品川プリンスホテルの格安ツアーが売出しになった。それにかこつけて電話する。

「もう欠席の返信ハガキを出した。」これで決定的となった。

それでも諦めきれず、これが最後だと電話した。

「仕事が墓石の販売会社が変わって忙しい」「墓石のセールスなら人が集まる所に出ればいい。私が宣伝するから出てくれないか。」

数日後出演交渉が成立した。

当日、彼がヨーデルを歌った後「私も私たちが過剰期だから墓石の御用命はーヨーアルーハカインー日はどうぞ」と紹介した。私が墓石を棺桶と言ひ間違えたら、客席から「どちらも同じだ」とやじが飛んだ。

こんな風にして竹高四十会in東京は、平成十六年十月二十三日に台風二十三号と二十四号の合同、晴天のもと品川プリンスホテルで行われた。全国からの出席者は一二五名。宴会の途中震度四の揺れがあり、テーブルの下に避難するアナウンスが流れた。新潟県中越地震だった。



東京四〇会例会 [16・10・23]
於 品川プリンスホテル

Now
in
Taketa



竹田市
市町村合併

みんなで考えよう！未来のたけだ

●お問い合わせ
企画課 ☎0974-63-1111(内線221)

1月28日の協議会以降凍結されていた竹田直入地域市町合併協議会は、3月10日に再開されました。これまで調整が難航していた「新市の名称」、「事務組織及び機構の取扱い」、「議会議員の定数及び任期」の各協議項目についても今回合意がなされ、今後は来年3月末の合併に向けていよいよ協議が最終局面を迎えることになります。今月は、これまでの合併協議の状況について整理してお知らせします。

第17回協議会の概要

再開された第17回協議会では、次のとおり調整案が確認されました。

①新市の名称は「竹田市」

昨年5月以降、繰り返し協議を重ねてきた新しい市の名称を「竹田市」とすることで決定しました。また、昨年10月に新市の名称を応募していただいた方の中から、「名付け親賞」等が決定しています。多くのご応募ありがとうございました。

②新市の議員定数は「28」

新市の議員定数は、定数特例を用いて下表のとおり選挙区ごとに行われることになりました。なお、この特例は合併した最初の選挙に限られます。

竹田市	荻町	久住町	直入町	計
15	4	5	4	28

③新市の本庁は現「竹田市役所」

新市の本庁は、現在の竹田市役所となりました。また、現在の3町役場は総合支所となります。

④他の確認事項

この他に11項目の調整案が確認されています。

合併協議の状況

竹田直入地域市町合併協議会では、右表の通り46項目の合併協議を行っています。現在30項目が確認済であり、11項目が協議中、5項目が未協議となっています。

不明な点やご意見等がありましたら、担当課または企画課までお問い合わせください。

市町合併 国の認可下りる

平成十六年十月二十日付官報第三九五八号(独立行政法人国立印刷局発行)において、現在の竹田市直入郡一市三町を廃し、竹田市を設置することが総務大臣から告示されました。これにより、竹田市直入郡一市三町の合併は正式に国の認可を受けられたこととなります。

これを受け、竹田市では引き続き合併に向けた調整を行います。

○総務省告示第八百二二号
市町の廃置分合
地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第七條第一項の規定により、竹田市、直入郡荻町、同郡久住町及び直入町を廃し、その区域をもって竹田市を設置する旨、大分県知事から届出があったので、同条第六項の規定に基づき、告示する。

右の処分は、平成十七年四月一日からその効力を生ずるものとする。

平成十六年十月二十日
総務大臣 麻生 太郎

新市の住居表示の取扱いについて

平成17年4月1日以降の新竹田市の住居表示については、以下のとおりになります。

1. 住民基本台帳上の住居表示

戸籍の表示にあわせ、住居表示における「○○番地の○」の「の」は表示しない。

2. 竹田市、荻町、久住町及び直入町の各地域の合併後の住居表示について

現行の市町ごとに次のようになります。

(1) 竹田市については、現行のとおりで変更ありません。

【例】大分県竹田市大字会々1650番地

(2) 久住町については、従前の「直入郡」を「竹田市」に置き換えます。

【例】大分県竹田市久住町大字久住6161番地1

(3) 直入町については、従前の「直入郡」を「竹田市」に置き換えます。

【例】大分県竹田市直入町大字長湯8201番地

(4) 荻町については、「大字」の文字は削除し、従前の「直入郡」を「竹田市」に置き換えます。

【例】大分県竹田市荻町馬場426番地20

さらに、右表のとおり荻町大字恵良原と荻町大字柏原が分割されます。

●お問い合わせ 竹田直入地域市町合併協議会 ☎0974-63-9554

現行	(新) 竹田市	読み仮名
直入郡荻町 大字恵良原 1~2693 番地	竹田市荻町 高城 1~682番地 819~1261番地 1696~1708番地	たかじょう
	竹田市荻町 恵良原 683~818番地 1262~1695番地 1709~2693番地	えらはる
直入郡荻町 大字柏原 1~7000 番地	竹田市荻町 陽目 1~664番地 竹田市荻町 大平 666~808番地 竹田市荻町 仏面 809~1035番地 竹田市荻町 叶野 1039~1665番地 竹田市荻町 高練木 1669~2502番地 竹田市荻町 柏原 2503~3503番地 竹田市荻町 宮平 3504~3906番地 竹田市荻町 田代 3907~4483番地 竹田市荻町 瓜作 4484~4980番地 竹田市荻町 北原 4981~5282番地 竹田市荻町 西福寺 5284~6224番地 竹田市荻町 鴨田 6225~7000番地	ひなため おおだいら ぶつめん かないの たかねりぎ かしわばる みやびら たしろ うりつくり きたばる さいふくじ しぎた

ふるさと名所紀行

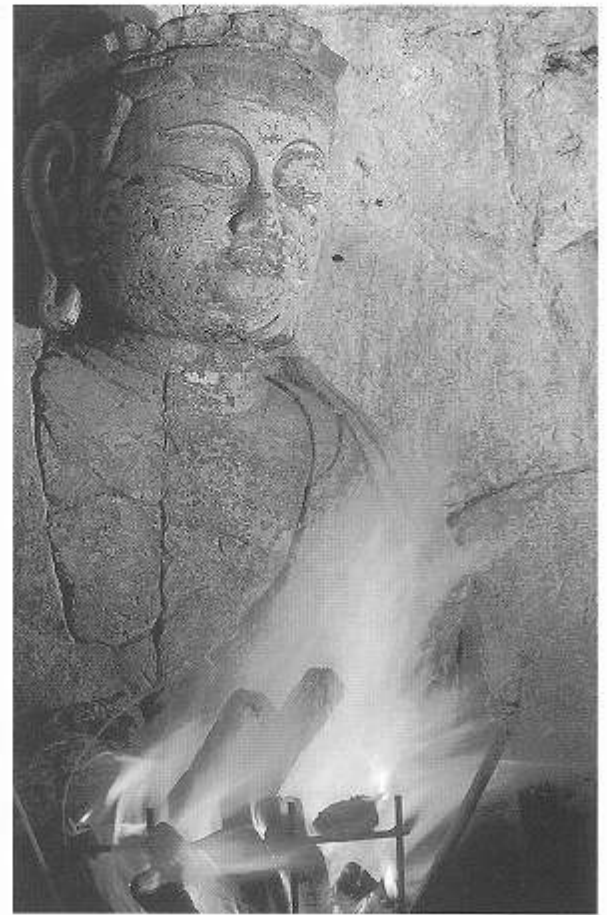
～国宝 白杵磨崖仏～

佐藤 毅士 (昭28年卒)

右のうたのように、大分県豊後地方には、平安時代から数多くの磨崖仏が造営されているが、その中でも中心をなすのが白杵の磨崖仏であろう。総体六十一鉢に及ぶその大半が平安時代の作で、その優れた出来映えとともに、長期にわたる保存修理が続けられ、平成七年には国宝に指定されたのである。

「石仏の淡き朱の色
夕紅葉」
矢田 豊年

「犬飼の山の石龕さえも
ともに染めたり
淡き朱の色」
与謝野晶子



大日如来像

四群に分かれた平安期の造営は、基本的には当時の末法思想を背景にしていると考えられている。特に中尊の大日如来像は日本石仏中の最高傑作である。高く秀でた眉、切れ長の伏目に端正な顔、ほのかに紅を刷いた唇にあたたかい心が通う。きわめて端嚴な相好であるがゆたかな両頬や、ややとがった二重頤、ゆったりとした福耳など幽玄で神秘的雰囲気があったよう。



白杵石仏の里



ホキ石仏第一群第2龕

の教主である薬師如来が三仏並坐に表されている。

造営の支援者としては、豊後の豪族大神氏の一族白杵氏と見られているが、十二世紀前後の造営と考えれば白杵惟茂が最も力を注いだものと推定される。

白杵磨崖仏群は静寂な田園風景の中に古代仏教文化の大きさを示している。ホキ石仏、堂ヶ迫石仏、山王山石仏、古園石仏などから成り、造営の背景には、この地方の豪族大神氏の天台宗保護の大きな力があつたと思われる。

これらの石仏群は十二世紀、豊後の国の繁栄と、仏教文化の豊かさを現在に伝える重要な史料である。

附記

「龕」＝神体や仏像を安置するお堂の形のもの。

所在地

大分県白杵市前田、深田、中尾

交通

日豊線白杵駅からバス利用

竹田高校 関東同窓会

Home Page Open !!

URL <http://www.geocities.jp/kantohtaketa/>

メールでの問合せ先
gagyutaketa@yahoo.co.jp

連絡先：佐藤 毅士
TEL/FAX：0297-78-7774

皆さん 積極的にご活用して下さい。コメントや投稿をお願い致します。

訃報

物故者御芳名

●該当者 無し

何らかの方法により、事務局へ連絡を頂いた方々を掲載しております。

会員の皆様へお知らせ!!

第十九回 関東同窓会

懇親会のご案内

第十九回関東同窓会は標記の通り、今年六月十八日(土)「ホテルセンチュリーハイアット」で開催しますが、その懇親会にゲスト出演予定の落語家の柳亭市馬師匠のプロフィールを紹介いたします。



芸名 柳亭 市馬
(りゅうてい いちば)
本名 右藤 泰幸
(うとう やすゆき)
出所 吾妻八景
紋 丸に花菱 桔梗
生年月日 昭和38年12月6日
出身地 緒方町

プロフィール

- 昭和55年3月 竹田高校卒業
- 昭和55年3月 柳亭小さん入門
- 昭和56年4月 前座になる。前座名「小幸」
- 昭和59年5月 ニツ目昇進。「さん好」に改名
- 平成5年9月 真打ち昇進。

四代目「柳亭 市馬」を襲名

よく演じるネタ

長屋の花見／高砂や／青菜／出来心／寝床

受賞

- 平成7年度 国立演芸場花形演芸大賞
- 平成3年度、5年度(日刊スポーツ新聞社主催)につかん飛切落語会若手落語家奨励賞受賞

趣味

剣道／スキー／芝居見物／横笛／相撲、野球観戦／流行歌

今後の抱負

嘶の風情をこわすことなく、その場のお客様に喜ばれるよう努めたい

詩歌・文芸

春待つ心

石原 田鶴子
(昭14年卒)

年毎に耐える力の弱まりて春待つ心の切なる朝

隣のベットに在るべき人の居ぬ不條理此の空しさを誰に告ぐべき

パスの旅珍らしく隣が空いてゐる他人には見えねど夫の居るかも

餌をやる人は亡けれど冬眠より覚めたる亀は苔纏ひ出づ

飛行機雲が真二つに今切りて行く伊豆の海に続く青空

あとがき

※「投稿」をお待ちしています。

若い世代の皆様様の「クラス会情報」や「特別寄稿」等々、ご投稿を特に期待しお待ちしております。

投稿内容

- ①クラス会情報
- ②故郷の便り
- ③海外便り
- ④会員の語らい
- ⑤詩歌・文芸
- ⑥会員の催し
- ⑦会員消息
- ⑧その他

委員一同

連絡先

〒302-0034

茨城県取手市戸頭七丁目

七二二-二〇二

佐藤 毅士 宛

(広報委員長)

TEL 0297-78-7774

FAX 0297-78-7774

新竹田市の市章が決定!!

2004.11.10の第24回合併協議会で、新市の市章が決定しました。全応募作品737点から、選考委員会であらかじめ選考された5点の中から、協議会委員の投票により決定しました。

応募したのは、東京都江戸川区の伊東哲也さん(41歳)。



↑新竹田市の市章

市章の色は下記のHPをご覧ください。

<http://www.taketan.net/backnumber/20041201/20041201.php>

デザインの趣旨

ひらがなの「た」をモチーフに竹田市の将来都市像から名水名湯をイメージして、デザインしました。また、波紋は同地から広がる輪を表しあふれ出る水と湯気は活力と暖かさを表しています。